

最高の花婿

観賞日 2024年4月8日 上映時間 97分

【概要】

制作 2014年 フランス

監督 フィリップ・ドゥ・ジョーヴロン

脚本 フィリップ・ドゥ・ジョーヴロン、ギイ・ローラン

音楽 マルク・シュアラン

撮影 ヴァンサン・マチアス

出演 クリスチャン・クラヴィエ（クロード・ヴェルヌイユ）

シャンタル・ロビー（マリー・ヴェルヌイユ）、エロディ・フォンタン（ロール）

パシカル・ンゾンジ（アンドレ・コフィ）、サリマタ・カマテ（マドレーヌ・コフィ）



【あらすじ】

フランス中部、ロワール地方のシノン。そこに暮らすクロードとマリーのヴェルヌイユ夫妻。夫妻は敬虔なカトリック教徒で4人の娘がいた。弁護士の長女はアラブ人弁護士、歯科医師の次女はユダヤ人、画家の三女は中国人の銀行員とそれぞれ結婚していた。娘たちの幸せを願う夫妻であったが、素直に喜べない何かを感じており、四女にはカトリック系のフランス人との結婚を望んでいた。長女に子供が生まれ、お祝いに家族が一堂に会する。しかし、そこはフランス語で会話をするが、異文化を持つ民族の垣塙。結局、夫妻は娘たちの夫と仲違いし、娘夫妻同士も売り言葉に買い言葉でけんか別れしてしまう。クリスマスの晩、再び家族が集合。皆、前回の失敗に懲りて大人の対応をする。やがて、四女のロールから、婚約を告げられた夫妻はフィアンセがシャルルという名でカトリックであることを聞き有頂天。しかし、会ってみるとシャルルはコートジボアール出身の黒人であった。一気に落ちこむ夫妻。結婚式を目前に控え結婚当事者と両親との会談。母親同士はうちとけるが、両方の父親は結婚に大反対。犬猿の仲の二人は魚釣りに出掛ける。そこで起きた出来事は・・・。

フランスで1300万人の観客を動員し大ヒットした映画。移民国家フランスをコメディタッチで描いた話題作。

【解説】

■ポイント

●娘たちの夫

姉妹	夫の名前	出身国	宗教	職業
長女	ラシッド	アラブ人	イスラム教	弁護士
次女	ダヴィッド	ユダヤ人	ユダヤ教	失業中
三女	シャオ	中国人	—	銀行員
四女	シャルル	アフリカ黒人	カトリック	役者

■見どころ

- 娘の夫たちの奇妙な連帯感
- 名作「招かれざる客」以降、50年近く経った現在でもまだある白人と黒人の結婚の障害
- ハッピーエンド

ラストの父親二人の結婚式の挨拶